

神社の杜（五十三）

「やうにまた一本、巨樹が逝く」

片柳 茂生

令和元年九月十三日午前十時三十五分。この大事件は発生しました。ケールカー滝本駅の正面、参道入り口にあたる襖橋を渡ったすぐ右手にイチヨウの樹が立っています。樹齢約五百年、目通り約五メートル、樹高約二十五メートル。この大イチヨウは、長い間その厳めしい姿で御嶽詣の人たちを此処で見守り続けてきました。

春の萌え始めた黄緑色の姿も綺麗ですが、その存在を見せつけるのは、やはり真っ黄色に衣装替えた秋の黄葉の時。その立派な姿と、橋梁を昇り降りするケールカーとの組み合わせは、玄人素人を問わず思わず写真に撮りたくなる構図でしょう。また、このイチヨウの樹は雌だったため毎年たくさんのお銀杏を付け、それを皆が競って拾っていました。ただし、果肉の臭さと、車の屋根への直撃弾には困ることしきりでした。また、イチヨウの落葉は一斉と言うか短期間で起こることが多いようで、坂道に敷き詰められた大量の落ち葉によってタイヤは滑り、危険な思いをした人も少なくはありませんでした。

そんな地元の人には元より、参詣者や観光客も楽しませてくれたイチヨウは、徐々に樹勢が弱まり、平成二十七年には樹木医に看てもらおう程、見

年には樹木医に看てもらおう程、見たいにも樹の勢が衰えたことが解るようになりまし。樹木医の看たては、根の周りを覆っていた舗装が原因の一つとのことで、舗装を剥ぎ、不要な枝を切るという処置を施しましたが、回復する兆しは見られませんでした。そして近年では不慮の事故を思いばかり、伐採も考えていたところでした。

令和元年九月千葉県に甚大な被害をもたらした台風十五号、この台風がイチヨウの寿命を縮めた要因であることは間違いないでしょう。近所に住む人からは、倒れる二〜三日前より時折メリ・メリという音がしていたそうです。そして十三日十時三十分、根元から倒れその生涯を閉じました。

このイチヨウただ倒れただけではありません。イチヨウの周りには駐車場、家、ケールの橋梁などが存在し、倒ればどこかに被害が及んでも間違いないという状況です。でもイチヨウは、此処しかないという場所と時間を選んで倒れたのです。怪我人は無く、被害も最小限に留めた倒れ方でした。

地上に現れたイチヨウの根は、巨

樹には似つかない貧弱なものでした。今年は黄色く染まった姿を見ることはできません。しかし威勢の良かったこの見事に黄葉した姿を忘れることはしないでしよう。今までよく頑張りました。そしてありがとうございました。



敬神奉賛員募集のご案内

当社では、敬神奉賛員を募集しております。敬神奉賛員とは、御嶽大神の御神徳を敬い、皆様への心の拠りどころとして、また武蔵御嶽神社の更なる護持発展を目的に創設いたしました。奉賛員には例祭、祭典・行事のご案内のほか、新年に向けての御神札など各種の特典が受けられます。趣旨にご賛同いただき、ご入会下さいませようご案内申し上げます。

賛助費 五〇〇〇円

※詳しくは、社務所までご連絡下さい。

あとがき

日本は自然豊かで美しい国です。この御岳山にも沢山の樹木・生き物たちが息づき、私達もその中で共生しているつもりです。そのような中、近年の日本は大きな災害に見舞われることが多く、改めて自然の脅威を身近に感じています。突然倒れたご神木のイチヨウを思うとき、私達の生活を便利にすることにばかり捕らわれ、太古から息づく自然に対して配慮が欠けてはいないかと考えずにはいられません。人間も自然の循環の一部であることを思い、奮ることなく共に生きることが大切になりたいと思います。

令和になり当社にもフレッシュな人材が入社しました。新元号と共に羽ばたいていくってこれだと思います。どうぞ宜しくお願いします。

最後に、令和最初の約半年間を無事に過ごせたことを御嶽大神に感謝し、毎年丁寧に教授下さる先生方、ご奉納頂きました皆様、各種祭典や行事に御協力・御協賛下さいました崇敬者の皆様、各所関係機関の皆様に厚く御礼申し上げます。また、川崎市長沢御嶽講 講元末吉一夫様、低山トラベラー/山旅文筆家大内 征様、写真家鶴巻育子様、玉稿を有難うございました。

令和元年 十月 一日発行

編集 武蔵御嶽神社

〒一九八一〇一七五

東京都青梅市御岳山一七六番地

TEL 〇四二八(七八) 八五〇〇

FAX 〇四二八(七八) 九七四一

http://www.nusashimikakejinja.jp/

印刷 榎成和印刷